

思い出すこと

実践国文学一〇〇号出版お祝い申し上げます。

又、国文科会一二〇周年記念に際し色々御尽力下さいまして改めて感謝申し上げます。

私が入学した頃、学長先生は守随先生、教授陣には山岸徳平先生、久松先生、三谷先生、塩田良平先生、福田清人先生など国文学の礎となる先生方が揃って居られ、この様な素晴らしい方々に教えていただくことは幸運なことでした。ですから出来る限り授業に出席し講義を伺うことに専念しました。考えてみますと一番興味あることに的をばって勉強をした方が良かったかとも思います。

今は個人情報保護法由に先生方と学生との行き来が少なくなつたと伺って居り、又、コロナ拡大の中、益々難しいことと推察します。

鈴木 美知子

学生時代サークル活動に関係して、那須辰造先生には元町散策・御友人の北畠八穂先生のお宅訪問など多々お世話になりました。

卒業してからも当時中高に関係していた私は、時間が空くと同じ敷地内の大学に出かけ研究室で副手である友人とおしゃべりをしたり、時間が空いていらっしゃる先生とおしゃべりをして過ごして居りました。

その様な折、丁度山岸先生の富士登山百回記念と記憶しているのですが、連れて行つて下さるといので友人と参加させていただき浅間神社からの登山に無事成功いたしました。友人一人は心臓の関係で八合目以上は無理となりましたが、本当に良い思い出となりました。

授業で、守随先生の御尽力により、教室に市川猿之助氏

（今の猿翁）をお招きして歌舞伎の話を伺い、又、文楽の吉田玉男（？）氏に人形の動かし方などを拝見させていただきました。

又、三条西先生に香道の授業、その延長で有志で源氏香など桜同窓会館でお教えいただきました。二年位続いたでしょうか。

専門の先輩方から伺うと、先生のお宅に呼ばれて話を伺ったりしたことは卒業してからも深いつながりがあり、いつまでも母校をなつかしむことになっているとおっしゃる先輩方ももう九十才を半分以上越えていらっしゃいます。そう申す私も八十才に手が届きそうですが、母校及び国文学科の発展を願わずにはいません。

（すずき みちこ・実践桜会国文科会会長）